



英語学習をとおして
学んだこと

公文 健輔
会社員

◆ 私が英語学習を始めたきっかけ

私が英語学習を始めたのは、社会人1年目の時にタイに一人で旅行に行ったことがきっかけだ。特に目的を決めずにタイを訪れたが、観光名所を巡り、好きなものを食べ思う存分旅行を満喫できた。しかし、唯一できなかったことは現地の人達と話す事だった。なにせ、当時の私は、タイ語はもちろん英語もまったく話せなかったからだ。そんな旅行が終わり、日本に帰ってきてから「もし現地の人言葉が話せたらもっと旅行が楽しかったらうな」と気づいた。そこで、やるなら世界の共通語である英語を勉強しようと決心し、英語学習をスタートすることにした。



◆ 私が継続している楽しい英語学習

私が英語学習で、今まで継続していることはオンラインレッスンだ。私がやっているのは毎日25分間世界中のネイティブスピーカーと話す事ができるプログラムで、これまで約5年間で世界中の人以上の人達と会話してきた。と言えば聞こえはいいが、最初は緊張と不安でレッスンの間汗が止まらず、Sorryと言いながら愛想笑いしかつくる事ができなかったことを昨日のこのように覚えている。しかし、苦戦しながらもレッスンを繰り返していくうちに気づいたことがある。それは、彼らは英語という理解不能な暗号を喋っているのではなく、彼らが伝えたい気持ちを英語という言語で声に出しているだけだということだ。使っている言語が自分の母語とは違うから理解できないだけだと気づけた。当たり前のことだと感じるかもしれないが、私からすれば、この気づきは大きな英語学習の発見だった。それからは、英語を漠然と勉強することをやめ、彼らの話している内容を聞き取るための



勉強をスタートさせた。文法やリスニングの勉強を漠然とするのではなく、彼らの気持ちを理解するため、自分の気持ちを伝えるための勉強だと思えば英語の勉強が楽しくてたまらなくなった。こうして、英語学習を楽しみながらレッスンを現在も続けることができています。

◆ 英語学習を通じて学んだ2つのこと

ここで、英語学習を通して言語習得以外に得られたこと、学んだことを2つ紹介する。

1つ目は「違いに寛容になれた」ということ。毎日、国籍・年齢・育ってきた環境・性格・価値観が自分とは違う人達と話す事で「他人は自分と違う」ということに慣れてきた。つまり、育ってきた環境も何もかも自分と同じ人は存在しないから人は自分と違って当たり前だと思えるようになった。これは自分が現在リアルで属しているコミュニティにいるだけで、世界中の人達と話さずに過ごしていたら、これから先も気づけなかったことだと思う。だから今では、他人が持っている自分にはない部分に魅力を感じるし、他人にはない自分の価値観やアイデンティティを大事にしたいと思えるようになった。

2つ目は、「違いに寛容になること=すべてを相手に合わせることではない」ということ。1つ目の気づきと矛盾しているように感じるかもしれないが、違いをすべて受け入れることが良いとは思わないと思うようになったのには理由がある。

2024年8月頃アメリカ人の友人と1か月程度ルームシェアしていたときのことが、日向灘で大きな地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報が発表された。当時、部屋でニュースを

見ながら「地震怖いなあ」とつぶやくと、友人が「地震は怖くないよ。私たちがコントロールできるものではないから起こっても仕方がない」と言ったことがきっかけだった。阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震等を経験し多くの人を亡くしてきた日本人としては、その発言に黙ってはいられなかった。「なぜそんなことを言うのか」そんな気持ちが溢れ、友人の前で初めて感情的になり長い時間話し合った。

この経験で気づいたことは、人は自分と違う意見を持っていて当たり前で、自分が違うと思ったときは、すべてを簡単に受け入れなくていいということ。そして、そんな時は自分の気持ちをありのまま伝えて話し合うことが重要ということだ。

意見が食い違うときに自分が感じている気持ちを自分の言葉で伝えることは勇気が必要だが、ありのままの気持ちを交換することで初めて他人と分かり合えるのだと思う。

だから、私は多くの人の気持ちを分かりたいし、自分の気持ちを自分の言葉で伝えたい。そのためにこれからも英語の学習を続けるだろう。そして、世界中の人達と気持ちの交換をすることは、きっと自分の人生を豊かにしてくれると信じている。

KOCHI IYEO HP



2025年1月10日発行
発行者
高知県青年国際交流機構
(KOCHI IYEO)
会長 前田正也

☎ 090-9552-0022

✉ xiwang@yacht.ocn.ne.jp